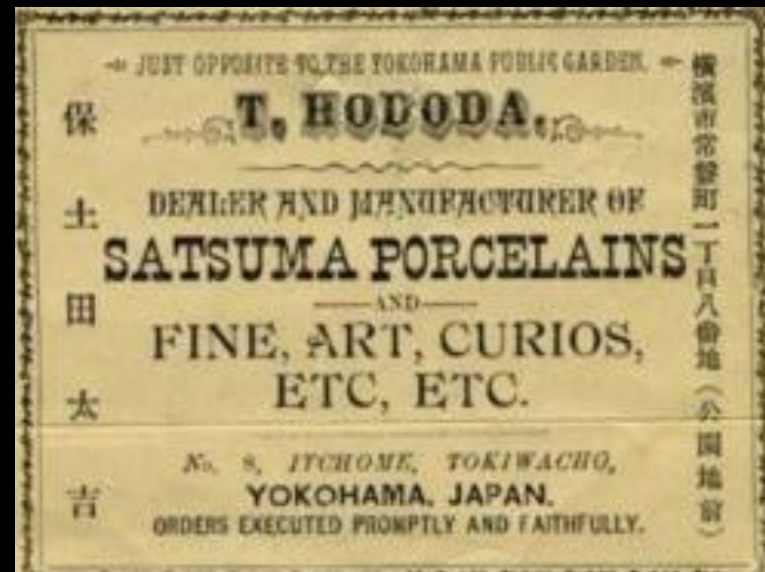


薩摩焼の名窯・作家の紹介

世界を驚嘆させた名窯・作家たち

保土田太吉 [1868- ? 年]

神奈川県橘樹郡に生まれ、15歳の時から横浜の製茶屋で修業し、22歳頃から陶器商に従事しました。1903年に堺町（現・日本大通り）に店舗を構え、1890年頃から1920年頃まで主に



薩摩焼（横浜薩摩）の輸出と販売をしていました。一般品から高級品まで多種多様なものを製造していました。保土田とともに働いたことのある非常に優れた芸術家には、慶喜、明山、正信、帯山、章山などがいます。保土田の死や会社の閉鎖に関する詳細な記録はありません。1900年の春季美術展覧会（褒状3等賞）、1904年のセントルイス万博で銀賞を受賞。

服部 [生没年不詳]

横浜元町に店舗があり、自社製品を製造し欧米諸国へ輸出していたようです。詳細な資料がなく余り知られていませんが、かなり細密緻密な薩摩焼（横浜薩摩）を製造していたようです。

＊幕末から明治にかけて開花した薩摩焼は、そのほとんどを欧米諸国に輸出したため国内に遺品は少なく余り研究が進んできませんでした。近年、約100年の旅を終えて欧米諸国から相次いで里帰りしていて、徐々に様々な事が解明しています。ここに記載した名窯はごく一部に過ぎず、より研究が進み解明が進むことを期待しています。